

様々な製造現場で活躍する

各種 金型や微細加工部品

協栄プリント技研

協栄プリント技研（東京都調布市多摩川一丁目一、電話〇四二一四八四二二五）は、四月五日～七日まで東京ビッグサイトで開催された「高機能素材Week」（高機能フィルム展）に、超精密金型や微細加工部品を出展し、好評を博した。

そして、創業50年を迎えた今年、「一型入魂」をモットーに更に技術を磨き、他社には真似のできない精密加工技術確立。エレクトロニクス分野はもちろん、航空・宇宙分野、医療機器分野などにも進出するなど活躍の場を拡大している。

同展示会で紹介された金型をいくつか紹介する――

3次元形状金型は、加飾フィルム成形品などを形状に沿って3D形状でカットできる金型。

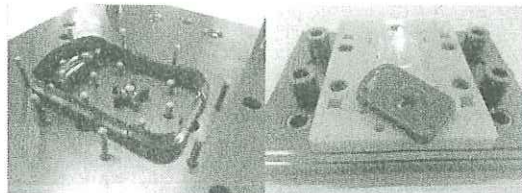
1967年の創業以来、プリント基板の製造を手掛けてきた同社では、その経験を生かして

同金型を利用すれば薄くて柔らかなフィルムやシートも3D形状でカットすることが可能。様々な機能を付与させたフィルム・シートが幅広い製品に利用される昨今、導入件数を伸ばすことが予想される。

金型は、抜き差し、コンパウンド、彫刻型など様々なタイプのものでユーザーニーズに応じて作製する。

フィニッシュプランキング工法で製造されたプリント基板用金型も注目を集めた。

従来の金型でプリント基板をカットするとダレやバリが発生してしまう



3次元彫刻型 樹脂製受け板



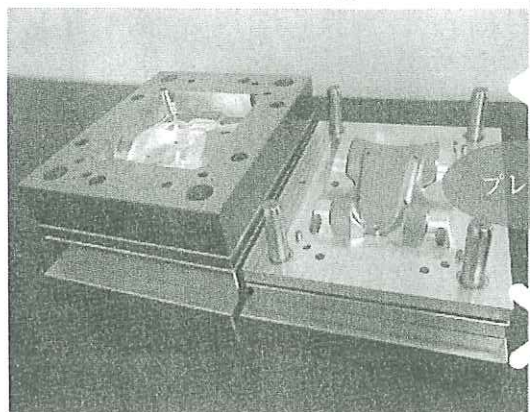
3D刃先コンパウンド型



真空成形品



抜き製品



3Dコンパウンド型

3次元形状金型

という問題があった。これに対し、同金型を用いてリジット基板をカットすると白化やせん断面のダレ、破断面のバリを解決。さらに、放熱基板でもせん断面のダレ、破断面のバリを解決する。高密度・高精度はもちろん短納期・低コストが要求されるプリント基板の製造現場において同金型は不可欠なツールとして多くのユーザーに利用されている。

また、同展示会では同社の優れた技術による微細加工部品も紹介された。難削材や脆性材といった素材の加工にも対応。注文は一個からでも可能なため、試作評価用といった用途にも最適である。

E-Mail: kpg.jp

http://www.kpg.jp